

## 嗚呼頓田の森

甘木市 森山 一子

太平洋戦争は、いたる所に後遺症を残したまま終結しています。中国残留孤児の問題も、その一つだといえましょう。また、戦争は、日本全土に、数々の悲劇を残しました。

わたくしの住んでいる甘木市といえども、けっして例外ではありません。市の繁華街より2 kmほど離れた所に、「頓田の森」と呼ばれている場所がありますが、こんな辺ぴな所が、戦争で修羅場に早替りするなんて、一体誰が想像できたのでしょうか…。

悲劇の発端は、昭和20年3月27日、B29爆撃機74機による、太刀洗飛行場の爆撃の際、頓田の森に、爆撃が落されたことによりはじまったのです。

この爆弾は、頓田の森に避難していた立石国民学校の生徒31人の尊い生命を奪ってしまいました。

こんな戦争の悲しい思い出が一杯つめこまれた「頓田の森」も、今では、市民団体の手によって、「頓田の森 平和公園」に生まれかわりました。それから「頓田の森」で生徒達が爆死した3月27日には遺族の人達の手によって慰霊祭が行われ、また、市民団体等により、平和を願う慰霊コンサートなどが催されています。それに、「頓田の森 平和公園」の入り口の左側には、一枚の立て札が立てられており、それには次のようなことが書かれています。

私達につづく戦争を知らない世代に

太平洋戦争末期、昭和20年3月27日、国東半島から侵入した米軍のB29爆撃機の大群は、太刀洗飛行場を爆撃しました。その時、落された爆弾の1発が、この「頓田の森」で、立石小学校の児童31人を殺したのです。このことを知る人がだんだん少なくなっています。この時以来、児童の親や、兄弟、祖父母は、何を思い、何を考え、どんな毎日をすごしてきたのでしょうか…。私達は、この事実を風化させることなく、戦争を知らない次の世代の子供達に残さねばならないと思います。二度とこのような、悲惨な戦争をくりかえしてはならないのです。私達は故里甘木朝倉を愛しています。この故里を愛する心を一人一人が育ててゆくためにも、「頓田の森 平和公園」をみんなで育てていきたいと思います。

昭和56年11月

社団法人 甘木朝倉青年会議所

わたくしは、その立て札を見るたびに、戦時中のことが思い出されてなりません。それで、こんな短歌を作ってみました。

「50年すぎ爆撃の跡顧みて頓田の森に死す子ら憐れ」

「爆弾に削ぎとられたる木の下で『水ください』とすがりて息絶ゆ」

「目と耳をしっかりと押え三姉妹身をよせあいて息絶えており」

「額から削がれかたちは変わりても母は我が子といいきりて抱く」

「長男は冷たき骸と変わりしも重傷の三女はぬるき血流しぬ」  
「木の下に並べられたる二十四の小さき遺体荒筵で覆えり」  
「逝きし友の後追うごとく重傷の子らも死にゆく春をまたずに」  
「この森で子を死なせたる親達は戦争終れどこの地を去らず」  
「児童らの最後を書きし立て札を戦争知らざる子も読みて泣く」

それから、もう1か所「頓田の森」の思い出が残されている場所に、宝満神社というお宮があります。ここには、延命地蔵や立て札などが立てられており、次のように書かれています。

#### 殉難者児童名

(初一) 深江勲 中村英樹 水城厚子 窪江洋美 (初二) 早野一登 田中清子 窪山小夜子 原田豊 (初三) 窪山兼弘 北川正房 早野正治 中村セキ 窪山一利 (初四) 早野進 小田久光 矢山百子 三ヶ島幸子 深江玲子 飯田昌子 (初五) 石井貞雄 早野博己 窪山千恵子 田中テル子 早野日出子 窪山邦子 高山博子 桑野千恵子 (高一) 北川伊助 早野正男 窪山安美 田中シズエ 窪山利子

平成五年三月建立

甘木市立石小学校父母教師会

以上のように書かれています。この立て札は、戦争の悲惨なこの事実をいつまでも忘れないで欲しいという願いからと、平和の尊さを後世に残してゆこうという思いから建てられたものです。

わたくし達日本国民は、太平洋戦争で、約311万人あまりの尊い犠牲者をだしています。それに、世界のうちでただ一つの原子爆弾の被爆国です。

そんな国だからこそわたくし達は何時も先頭にたち、世界の国々の人に向かって、平和を訴えてゆく責任があるのではないのでしょうか…。

それにしても戦争はむごい、何の罪もない子供達でさえ平気で殺してしまうのだから。今更のように、戦争のむなしさを感じさせられる今日この頃です。